
ロボットの使い手

圓maru

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ロボットの使い手

【Nコード】

N0119Z

【作者名】

圓maru

【あらすじ】

オタクな主人公が行く物語。*腐ってはいません

2作目ですが、1作目はノーカン。はっきり言って読まない方がいい。それ位駄作です。この作品もそうなるかもしれませぬ。

プロローグ（前書き）

暖かい目で見てもらえたら幸いです。

プロローグ

とある空間。色は黒でもなく、白でもない。かと言って青や赤といった他の色でも無い。

立って居る訳でもなく、浮かんで居る訳でもない。完全に矛盾した空間。そこに俺は居た。

「……此処は何処だ？」

言葉は出ない。ヒトに言葉を発する事が出来る訳が無い。此処はそう言う空間なのだから。

どれ位の時間が経ったのだろうか。1分なのか、1時間なのか、はたまた1日以上なのか。

「探したぞ。津田俊」

彼の前に誰かが現れた。だが、その誰かは男でも女でもない顔立ち、そして、男の声でも女の声でもない。

「此処に我以外入る事が出来ない。また、存在する事も出来ない。しかし君は存在している。イレギュラーな存在」

「……なら何で俺は此処に居る？」

「我に近い存在であるためにこの空間に居る事が出来る。それと、

不便だろうから話せるようにした」

「あー。おー！喋れる！良かった〜。で、何であんたに近い存在なんだ？んでもってあんたは誰だ？」

「我は君の世界で言う神。君は神になる事が出来る素質を持っている。だが、人が神になる事は出来ない。よってイレギュラー」

嫌な事を聞いてしまった。何で、んな面倒な素質持ってたんだよ俺は。

「君には力を理解してもらつ為に異世界に行ってもらつ。その後には神になるかどうかを決めてもらつ」

「んな急にんな事言われてもなあ。ま、面白そうだからやってやるが」

「そうか。だが、君の力は我には劣る。挑まない事だな」

「恩人にんな事するかってんだ。待ちに待った異世界だ。さっさと送ってくれ」

ちなみに俺はオタクと呼べる分類に入る。かと言って二次小説とかにある、強制的にハーレムを作る輩では無い。そんなのと一緒じゃないでくれ。

「そうか。では送るぞ。ちなみに力については君が理解してくれ。」

「了〜解〜」

そう言った瞬間、目の前が真っ暗になった。

~~~~~

「んあ~~~~~あ？」

どっかの部屋だ。誰の部屋だ？

「おーい！誰かいるかー？」

……返事が無い。一人のようだ。

「痛い子みたい。ここの家散策するか。  
此処は一軒家。結構広いのである。」

~~~~~

「俺の家みたいだな。表札津田だったし。だけど何で女の服があるんだ？めんどいから処分はしないけど。」

そーいやー俺ってシカマルみたいな性格だよな。悪くはないけど。

「街散策すつか。力諸々はあと回しにして」

しょうもない事を考えながら家を出る。

住宅街だな。此処は。どーゆー世界なんだ？

~~~~~

「何にもわかんねーな。黒猫に会った位か？」

その瞬間、一瞬だけだが頭がフリーズした。それは、目の前に虚が居たからだ。

そして、家に帰った。すぐに。力を上手く扱えないと思ったからだ。

「虚ってBLEACHじゃねーか。じゃあさつき会った黒猫は夜一さんか？ いや、決め付けるには早すぎる。野良の可能性だって有るんだ。……よし！ 力の確認しよう！ 今すぐに！」

上手く扱えるかな？ 少々不安になる俺だった。

## ブログ（後書き）

思い付きでやったモノなので更新はどのようになるかは分かりません。

感想など待っています。

## 主人公設定

名前：津田・俊

性別：男

年齢：18（変更できる。ちなみに変える事は滅多に無い）  
不老。不死はない。

能力：

「ガンダム・マクロスなどロボット系」

デバイスや、ISのようにすることもできるし、（変形する時、体がねじれる事はない）召喚してサポートをさせることも可能。

「ポケモン」

6体まで召喚できる。6時間で瀕死のポケモンは全回復。手元のゲームで調整ができる。

「ナルト」

ほぼ全ての術が使える。チャクラ量は九尾の半分の量。普段は封印している。

「テイルズ」

全シリーズの術や技が使える。TPはゲームで言うMAX。普段は10。

「ドラクエ」

全ての術が使える。MPはゲームで言う

MAX。 普段は封印している。

メインはロボット系。他にもいろいろ使えるが、これ位しか使われない。

身分：一般ピーポー。知り合いはモブだけ。

武器：変幻自在。 普段は1cm程にして剣型のネックレスにしている。 銃形態の時、弾は必要ない。

備考：容姿はそれなりにいいのだが、前の世界では隠キャラな性格だった為、彼女は出来ない。

学校には通って居ない。理由は、知識が公務員並。そして何よりめんどい。

金は世界を動かせる程。あまり使わない為、あまり減って居ない。

王の財宝は倉庫。あり得ない程入っている為にあまり手は付けて居ない。

趣味にダイビングをやっている。海の方の。

移動の足にトランスフォーマーのバイク型を使っている。勿論本物。

霊圧の代わりに、気を使っている

## 1話(前書き)

漫画主体で行きたいと思います。

## 1話

「ただいまー」

帰宅なう。いやー、野生のサメ見れて良かったー。ほんと、今まで頑張った甲斐があったと言っものだ。

「おう、おかえり。どうだったか？」

ちなみに、この言葉の主は「ポケモン」のゾロアークである。ポケモンを出せるようになってから、こいつを空き巣対策兼話し相手として常に出している。結構頼りがいが有る。

「いやー、ほんとに楽しかったよ。ほら、写真。」

そう言っってカメラを渡す。水中でのカメラっって結構難しかったんだよね。今じゃあもう慣れたけど。

「ほー、よく撮れてるな。っておい、ちょっと待て。こんなにいたのか？軽く100は超えてるだろ。」

「まあ、そーゆーポイントだからな。そこは。」

伊豆に有るポイントで、中級者辺りからじゃないと潜れないからな（ちなみにこれほんとの話）

「そーいやさ、ニュース見たか？どうせ見てないだろうがな。」

確かに見てないな。半年も経てば流石に分かってくるか？

「凶星だな。原作始まるニュースが今朝あったぞ。」

「原作始まったか。どうやって関わるうかね。」

「どうせガンダムとかになって顔隠すつもりなんだろう？」

「まあ、その通りなんだけどね。と言っても、3階から狙撃するばつかるうけど」

家の3階は屋上で、街を見渡せるようになっていて、デュナメスとかで狙撃できる。結界があるからばれないし。初めて回った時は只の屋上かと思ったからそのままスルーだったし。

そうそう、力の確認はどうしたのかというと、ネギまの魔法球でやった。半年が5年になるようにして。初めは暴発しまくりで、ひどい時にはどでかいクレーターができた時もあった。あん時は死ぬかと思ったよ、しばらくは動けなかったしな。

そう言えば今日がこの世界に来て丁度1年だったな。原作開始の1年前に来たと言う事か。

### 閑話休題

只今真夜中。そろそろ寝ます。おやすみ。

~~~~~

〜数日後〜

ただいま晴天なり。気持ちいいでござる。・・・こんな口調もいい

かもな。あ、そっち系じゃないよ。言っとくけど。

ん？織姫の兄の事件はどうしたって？スルーだよ、覗いて見たけど原作通りだったし。初めに関わるのは虚の大発生の時にしようと思っっている。石田が出て来た時の。最初で最後の神からの手紙によれば、イレギュラーが起きる事が無い世界だから暴れても問題ない。暴れるつもりは一切ないけど。

・・・チャドが目の前の交差点を横切ってた。此処の交差点だけ？少し覗いて来ようかな。デスサイズヘルで。勿論Endless Walksので。

1話（後書き）

短いけど書けた。そして書いている途中で思った。幾つか能力を消して、幾つか能力を足そうかと。でもそれだとこの小説が寂しくなりかねないので、常連さんしか知らない裏メニューならぬ、読んで見ないと分からない裏設定を付けようと。キーワードに無い設定を。と言う訳で裏設定。

ペルソナ：生身で全ての技を使える。SPはMAX

FF：全ての技を使える。MPはMAX

スターウォーズ&宇宙戦艦ヤマト：スターデストロイヤーを3隻、戦艦ヤマトを2隻宇宙に待機させている。戸魂界に行けるようになってる。これは、俺が変な方向に小説を進めた時の為。後ろの2つのみが。

感想など待ってます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0119z/>

ロボットの使い手

2011年12月3日19時56分発行